

国際協力海外レポート

濱田 昌大（はまだ まさひろ）【JICA 青年海外協力隊】

赴任地：フィリピン共和国 イフガオ州ラガウエ町
 職種：コミュニティ開発
 赴任期間：2015年7月～2017年7月（予定）



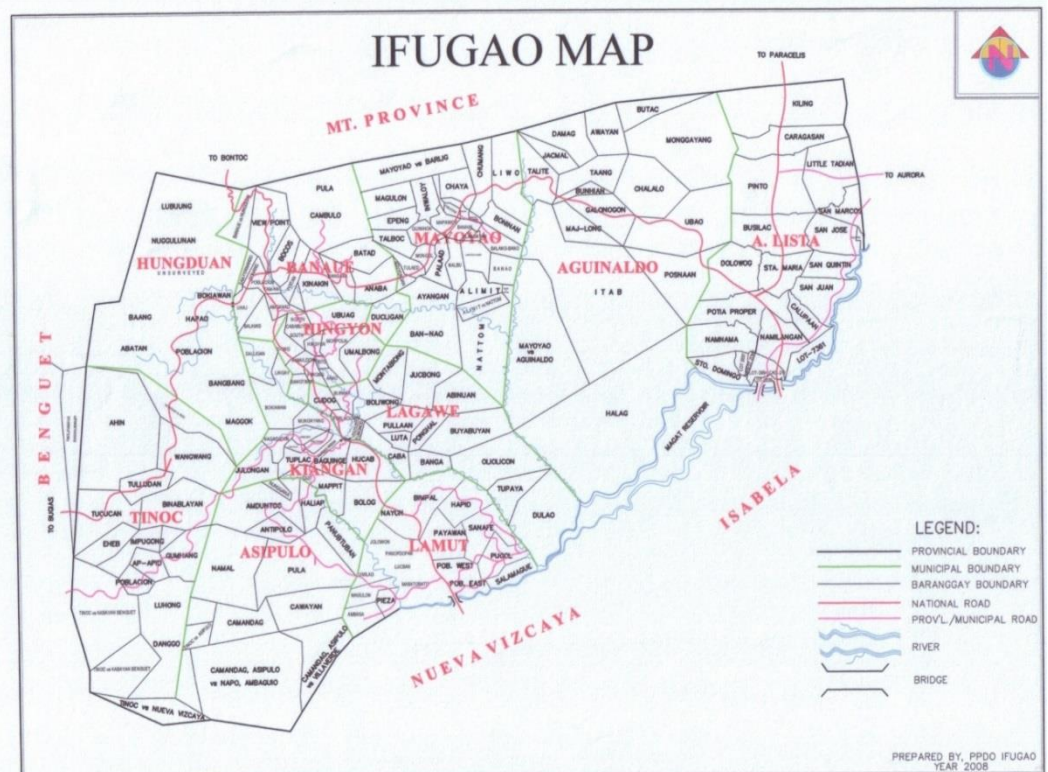
○イフガオ州と世界文化遺産の棚田群について

フィリピンのイフガオ州は、首都マニラのあるルソン島北部に位置する山岳地帯。マニラからイフガオまで移動するのに、バスで約 10 時間を要する。イフガオ州の総人口は、約 20 万人であり、主要産業は、農業（稲作）、林業、狩猟。全就業者のうち 80%以上が農業に従事している。イフガオ原住民のイフガオ族によって、約 2 千年前から、山の急斜面を活用した棚田群が建設されている。イフガオには、おびただしい数の棚田があり、棚田を全て横に並べると、地球半周分の距離になると言われる。棚田群としては世界最大規模である。

イフガオは、「天国への階段」（棚田への畏敬と尊称）、「世界第 8 番目の不思議」、「文化人類学の宝庫」と言われる秘境の山岳地。今日、世界中から多くの観光客が訪れている。棚田群の歴史的価値は高く評されており、国連教育科学文化機関（ユネスコ）により、1995 年に棚田群は世界文化遺産に登録された。

現在、イフガオ州には 11 の町（Municipality）がある。具体的には、アギナルド（Aguintaldo）、アルフォンソ・リスタ（Alfonso Lista）、アシプロ（Asipulo）、バナウエ（Banawe）、ヒンヨン（Hingyon）、フンドゥアン（Hunduan）、キアングアン（Kiangnan）、ラガウエ（Lagawe）、ラムット（Lamut）、マユヤオ（Mayoyao）、ティノック（Tinoc）の 11 町である。また、ラガウエは、イフガオ州の州都となっている。

このうち、ユネスコによって、世界文化遺産に登録されている棚田群を有している町は、バナウエとフンドゥアン、キアングアン、マユヤオの 4 町である。



イフガオ州のマップ。マップはイフガオ州政府から提供された。

○マヨヤオ及びフンドゥアンにて、棚田の保存状況の調査を実施

イフガオの棚田群が、ユネスコにより世界文化遺産に登録されると、格段に知名度は上がった。その結果、世界各国からより多くの観光客が訪れるようになっている。また世界文化遺産に登録されたことにより、世界各国の機関から棚田群の保存・活用についての資金援助を得やすくなっている。配属先のイフガオ州政府、文化遺産事務所では、世界遺産の棚田群やイフガオ州内の伝統文化の継承を主な目的として活動している。世界文化遺産の棚田群の保存状況を調査することも大切な仕事である。先日、イフガオ州のマヨヤオ及びフンドゥアンにて世界



マヨヤオの棚田にて。夜明けとともに、棚田の保存状況の調査が始まった。日が暮れるまで調査は続く。野山を駆け回るインディ・ジョーンズのような仕事である。

文化遺産の棚田群の保存状況を調査した。棚田における大切な設備の一つに灌漑水路がある。山の頂から山の裾野までおびただしい数の棚田が連なっているが、全ての棚田への給水は一本の灌漑水路によって行われている。灌漑水路が途中で壊れてしまい、棚田への給水がストップしてしまうと稲作をすることができない。今回の調査では、棚田一つ一つを現地住民にも協力してもらいながら調査して、灌漑水路の破損や棚田の石垣の損壊などの問題点を確認、記録していった。この地に足着いた「泥臭い仕事」

は、最終的に文化遺産事務所によって、一冊の報告書として纏められてユネスコに提出する。ユネスコでは文化遺産事務所からの報告を受けて、棚田の保存活動に必要な資金援助などをするかどうか検討するという流れである。もちろん今回の調査は、私の本務の一つである「棚田保全基金」の用途（灌漑水路の補修など）を決定する上での基礎資料にもなる。



棚田が青空を吸い込んでスカイブルーに。大変美しい。



フンドゥアンにて。おびただしい数の棚田が広がる。「美しい」と形容するよりも「神々しい」といった方が
が適当かも知れない。



フンドゥアンの調査最終日。この日は、山頂にある小学校も視察した。子供たちも先生も大きなパラソル
の下で一休みしている。フィリピンは日中陽射しが強い。先生お手製のスイートポテトをご馳走になった。

○イフガオ族の伝統文化継承プログラムを実施

イフガオ州政府、文化遺産事務所では、イフガオ族の伝統的文化である踊りや歌、ドラム演奏などを現役世代から次世代の子供たちに伝えていくことも大切な仕事である。文化遺産事務所が実施している「伝統文化継承プログラム」では、低学年の小学生を対象に、イフガオ族の伝統文化のマスターから直接、踊りや歌、ドラム演奏などを学ぶプログラムになっている。先日、イフガオ州のマヨヤオの小学校で行われた伝統文化継承プログラムでは文化遺産事務所のスタッフに同行して、プログラムの運営をサポートした。1週間かけて行われたプログラムでは、時に厳しく、時に優しく、マスターが子供たちを指導。短いプログラム期間であったが、子供たちの踊り、歌、ドラム演奏はメキメキ上達していった。プログラム最終日、子供たちの練習成果を発表する修了式には、あいにく文化遺産事務所の所長が仕事でマヨヤオに来ることができなかったので、所長代理として開催の挨拶を英語でスピーチ。また修了式では、プログラム修了生一人ひとりに終了証を手渡した。



伝統文化継承プログラムの発表会のステージにて。イフガオ族の伝統的装束が興味深い。マヨヤオでは伝統的装束に青色をふんだんに織り込んでいる。他の地域では見られない特徴である。



伝統文化継承プログラムの発表会の様子。子供たちが文化マスターと一緒に、イフガオ族の踊りを披露した。



プログラム修了生の一人。イフガオ族の伝統的装束である赤色のヘアバンドと青色のスカートが可愛い。



マヨヤオの小学校の朝礼。フィリピンの小学校では朝礼で国歌斉唱及び国旗掲揚を行う。私の知人曰く、第二次世界大戦の時にフィリピンに日本の朝礼が伝わったのではないかと。